

が望まれる。

また、地方自治法の改正に伴い、公の施設の指定管理者制度（従来の管理委託に替わるもの）を導入する場合にあっても、事業の公益性を明らかにした上で町負担の一層の軽減に努め、特に一部の採算の事業については早急に休止も視野に入れて検討することが必要である。

個別事項

① 株式会社

奥出雲振興

所管する事業部門は玉峰山荘、奥出雲町サイクリングターミナル、イクリングターミナル、仁多特産市、ふるさと交流センター「パスカル」があり、これらの施設は本町を訪れる交流者の滞在利用や情報発信、特産品の販売等を展開し、交流人口の拡大を図るとともに地域の活性化に大きく貢献しており会社全体では安定経営が行われている。

厳しい状況であり、例えばサイクリングターミナルはビジネスによる個人利用客等が多いことから、部屋を個室型に改造するなど効率的な利用促進を図ることも検討すべきである。

このような状況を踏まえ、今回の個別の健全経営に向けての答申は次のとおりであり各社の一層の努力を願うものである。

また、パスカルについては経営を他に移譲する等の合理化案も検討する必要がある。

しかし、個別の事業部門の経営を見るとサイクリングターミナルやパスカルについては

設や事業部門が広範囲であるため施設や設備の維持管理費、また人件費が経営を圧迫することになるため、常に経営分析による効率的な運営や各事業部門の連携による経営改善に努められたい。

(単位:千円)

奥出雲振興(株)	H15	H16	H17
	流動資産	132,716	115,036
固定資産	94,652	97,590	103,882
流動負債	76,391	58,698	97,756
固定負債	0	0	0
売上高	674,638	703,548	901,126
資本金	160,000	160,000	160,000
累積利益(当期利益)	613(510)	932(319)	1,086(155)
町からの補助金等	0	0	0
町への寄付金	15,000	5,135	3,205

奥出雲振興(株)

【設立年月日】 H12.5

【資本金】 160百万円

奥出雲町: 160(100%)

※決算月3月(4/1~3/31)

② 株式会社

仁多堆肥センター

堆肥の製造施設である仁多堆肥センターは循環型農業の拠点として、「仁多米」の全国的なブランド化の条件である高付加価値化に大きく貢献している。

しかし、現在の供給能力では町内全域を賄うことが出来ないため、現農業公社の堆肥製造施設の整備充実を図るとともに当社が一体化した経営を行い、今後も更に良質で安定的な供給に努められたい。